



木毛板の塗装品もできます。

ガイワライト

カベタイカ

外壁非耐力壁

CONCEPT

ダイワライト カベタイカの特長・性能

空間を活かす品質。
快適の創造。

ダイワライトとは高品質木毛セメント板(国土交通省認定準不燃QM-9070)にロックウール吸音板(国土交通省認定不燃第NM-8599)とを貼り合わせた、ユニークな積層板です。壁下地等に耐火・断熱・吸音に優れた材料です。

ダイワライト カベタイカは、国土交通省認定の耐火、吸遮音、断熱特性を活かした金属サイディング等外壁耐火下地パネルです。
工場・倉庫・体育館・商業・レジャー施設・駐車場等の金属サイディング下地として、

耐火30分 国土交通省認定番号(FP030NE-9073)・厚み30mm
(FP030NE-0113, 0166)

耐火45分 国土交通省認定番号(QF045BE-9025)・厚み30mm
(準耐火)

耐火60分 国土交通省認定番号(FP060NE-9056)・厚み40mm
(FP060NE-0164)

の国土交通省の認定を受けました。

吸音・遮音

ダイワライト カベタイカは木毛板とロックウール吸音板を複合化する事により、優れた吸音性能、遮音性能が静かな室内を創ります。

断熱

ダイワライト カベタイカは他のパネルと比較して優れた断熱性能を有し、気温の低い所では結露防止に大きな効果を発揮します。

熱伝導率(0.066W/m・K)

経済性

他の耐火パネルにはない、耐火・吸遮音・断熱等、多岐にわたる特性を持ち、かつ非常に経済性に優れた材料です。

R施工

R用の平ボードで施工時にビス打ちすることによりR対応ができます。
30mmで5mR以上、40mmで7mR以上です。

施工性

ダイワライト カベタイカの許可の条件として30分・60分共一層張で施工できます。

性能及び許可の条件

	ダイワライトカベタイカ30mm/m	特殊木毛セメント板20mm/m +プラスターボード9.5mm	プラスターボード9.5mm+ 亜鉛鉄板+プラスターボード9.5mm
外壁耐火	FP030NE-9073	FP030NE-9222	
熱貫流率K kcal/mh℃(w/mK)	1.43(1.66)	2.22(2.58)	3.57(4.15)
熱貫流率計算	$K = \frac{1}{0.05 + \frac{0.03}{0.0576} + 0.13} = 1.43$ ↑ ダイワライト30mm/m	$K = \frac{1}{0.05 + \frac{0.02}{0.09} + \frac{0.0095}{0.19} + 0.13} = 2.22$ ↑ ↑ 木毛セメント板20mm/m プラスターボード9.5mm/m	$K = \frac{1}{0.05 + \frac{0.0095}{0.19} + \frac{0.0095}{0.19} + 0.13} = 3.57$ ↑ ↑ プラスターボード9.5mm/m プラスターボード9.5mm/m
許可の条件	30分 一層張 60分 一層張	30分 二層目を縦横目違い張 60分 二層目を縦横目違い張	30分 二層目を縦横目違い張



■施工上の注意

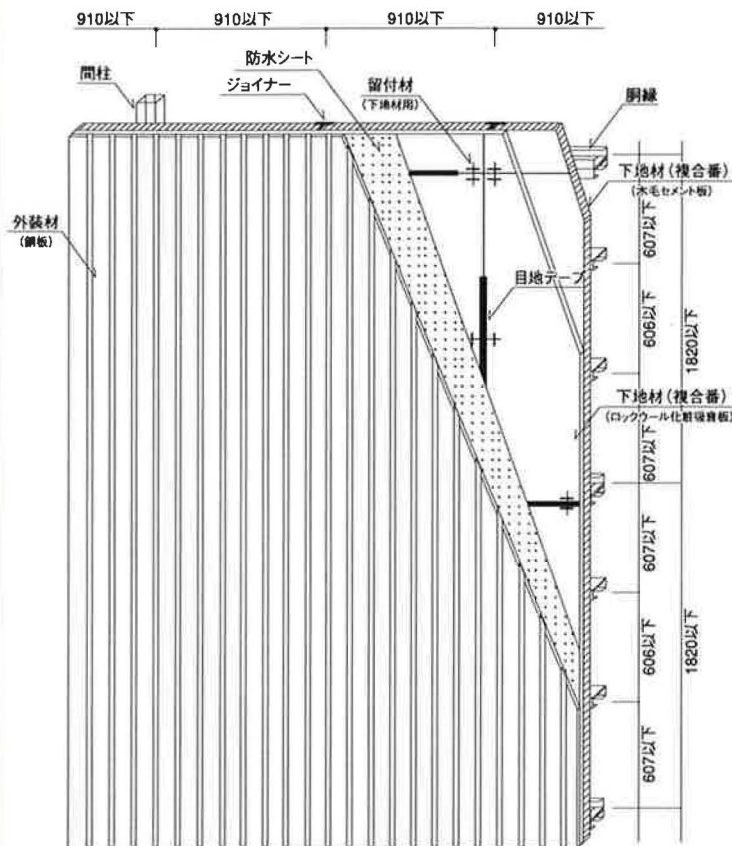
安全対策上タル木のない部分には乗らないようにしてください。踏み抜き防止、墜落防止のため、足場板を使用するか、安全ネットを張ってから作業を行ってください。

ダイワライト

カベタイカ 30スパンドレル

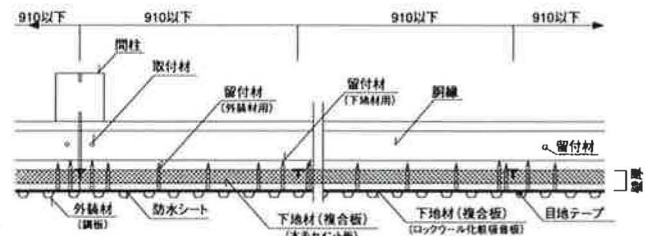
ダイワライト カベタイカ30分で、金属材のいろいろな形状に対応できる許可を取得しました。
認定番号 FP030NE-0113、0166

構造説明図 単位 mm

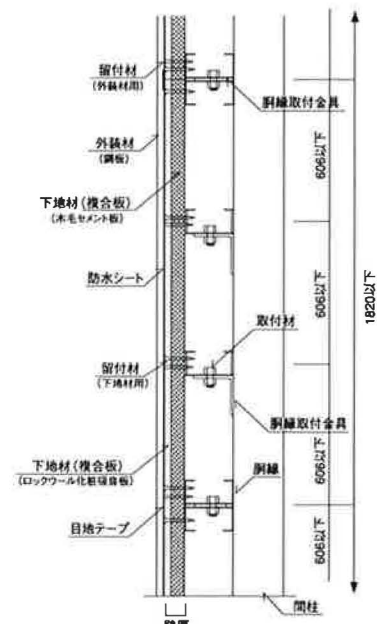


透視図

図1



水平断面詳細図

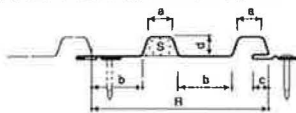


鉛直断面詳細図

図2

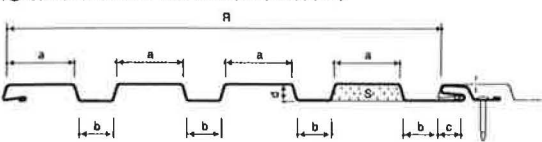
形状：仕様1

(①差込式働き幅片面端部1箇所留め)



厚さ(t): 0.4(-0.04)mm以上
働き幅(R): 105(-10.5)mm以上~230(+23)mm以下
山高さ(d): 10(-1)mm以上
山底幅(a): 14(-1.4)mm以上
谷底幅(b): 31(+3.1)mm以下
重ね代(c): 10(-1)mm以上
空間断面積(S): 1.78cm²以上

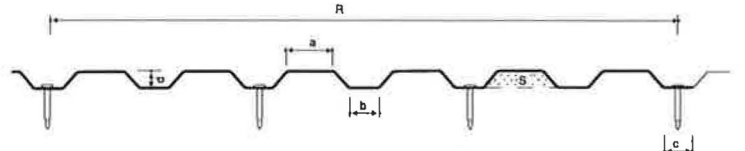
(②嵌合差込式働き幅片面端部1箇所留め)



厚さ(t): 0.4(-0.04)mm以上
働き幅(R): 260(-26.0)mm以上~340(+34)mm以下
山高さ(d): 10(-1)mm以上
山底幅(a): 40(-4)mm以上
谷底幅(b): 20(+2)mm以下
重ね代(c): 14(-1.4)mm以上
空間断面積(S): 4.00cm²以上

形状：仕様2 (重ね式両面端部2箇所以上留め)

留付間隔: 260mm以下



厚さ(t): 0.4(-0.04)mm以上
働き幅(R): 360(-36.0)mm以上~800(+80)mm以下
山高さ(d): 12(-1.2)mm以上 ~40(+4)mm以下
山底幅(a): 45(-4)mm以上 ~175(+17.5)mm以下
谷底幅(b): 18(-1.8)mm以上 ~50(+5)mm以下
重ね代(c): 33(-3.3)mm以上
空間断面積(S): 10.00cm²以上

外装材(鋼板)の折板形状・寸法断面詳細図

折板形状: 1) 2) または 3)

1) リブ波板

2) 角波板

3) 波板

なお、各辺部にリブ増強入り可

断面係数(Zx): 1.3cm³/m以上

図3

カベタイカ30分

■材料の種類

下 地 材	複合板	ダイワライト カベタイカ
	総 厚	30mm以上
	質 量	16.94kg/m ² 以上
ジョイナ ー	材 質 ①～⑤ のー	①溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) ②溶融55%アルミニウム-亜鉛合金 めっき鋼板 (JIS G 3321) ③溶融亜鉛-5%アルミニウム合金 めっき鋼板 (JIS G 3317) ④溶融アルミニウムめっき鋼板 (JIS G 3314) ⑤高耐候性圧延鋼材 (JIS G 3125)
	形状・寸法	T型-0.27×30×12mm
防水シ ート	材 料	透湿防水シート (JIS A 6111)
	厚 さ	0.9mm以下
目地テ ープ	材 料	セラミックファイバーブランケット (JIS R 3311)

外 装 材	材 料 鋼板の種類 ①～⑪ のー	①塗装溶融アルミニウム-亜鉛合金めっき 鋼板 (JIS G 3322) ②塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム -合金めっき鋼板 (JIS G 3318) ③塗装溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3312) ④塗装ステンレス鋼板 (JIS G 3320) ⑤溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき 鋼板 (JIS G 3321) ⑥溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき 鋼板 (JIS G 3317) ⑦溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) ⑧溶融アルミニウムめっき鋼板 (JIS G 3314) ⑨ステンレス鋼板 (JIS G 4304、JIS G 4305) ⑩塩化ビニル樹脂金属積層板 (国土交通大臣認定不燃材料: NM-8674～NM-8696のー) ⑪高耐候性圧延鋼材 (JIS G 3125) 但し、塗布量:70g/m ² 以下 (有機質量)
	形 状	折板 (仕様1又は仕様2:図3参照)
	厚さ(t)	0.4mm以上
	寸 法	仕様1 働き幅(R):105～340mm 山高さ(d):10mm以上 仕様2 働き幅(R):360～800mm 山高さ(d):12～40mm

認 定 書

大和建材工業株式会社
代表取締役 岡本 健太郎 様

国 住 指 第4385号
平成21年3月9日

国土交通大臣 金子 一孝



下記の構造方法等については、建築基準法第68条の26第1項 (同法第88条第1項において準用する場合を含む。) の規定に基づき、同法第2条第七号並びに同法施行令第107条第二号及び第三号 (外壁 (非耐力): 各30分間) の規定に適合するものであることを認める。

記

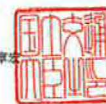
1. 認定番号
FP030NE-0113
2. 認定をした構造方法等の名称
塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板・ロックウール化粧吸音板
木毛セメント板表張/軽量鉄骨下地外壁 (非耐力)
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

認 定 書

大和建材工業株式会社
代表取締役社長 岡本 健太郎 様

国 住 指 第 432 号
平成 23 年 7 月 13 日

国土交通大臣 大島 章宏



下記の構造方法等については、建築基準法第68条の26第1項 (同法第88条第1項において準用する場合を含む。) の規定に基づき、同法第2条第七号並びに同法施行令第107条第二号及び第三号 (外壁 (非耐力): 各30分) の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP030NE-0166
2. 認定をした構造方法等の名称
塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板・ロックウール化粧吸音板・
木毛セメント板表張/軽量鉄骨下地外壁 (非耐力)
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

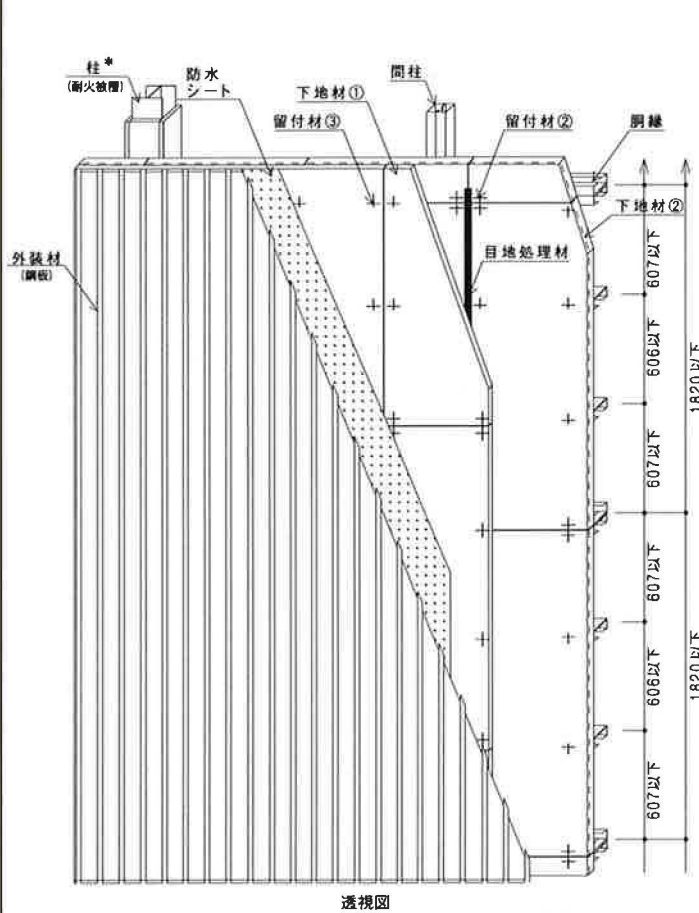
(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

ダイワライト

カベタイカ 60スパンドレル

ダイワライト カベタイカ60分で、金属材のいろいろな形状に対応できる許可を取得しました。
認定番号 FP060NE - 0164

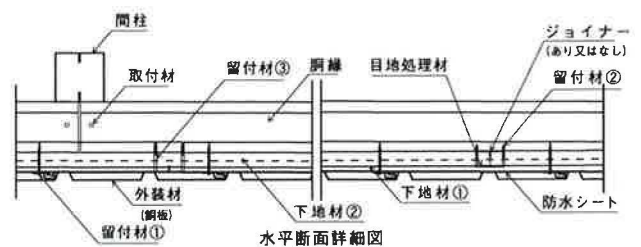
構造説明図 単位 mm



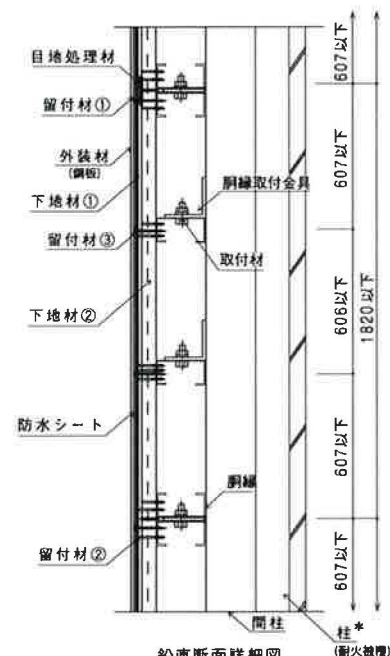
透視図

* 評価対象外

図1



水平断面詳細図



鉛直断面詳細図

* 評価対象外

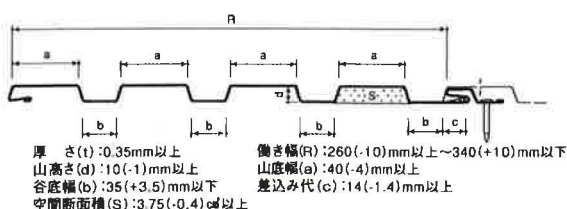
図2

形状：仕様1

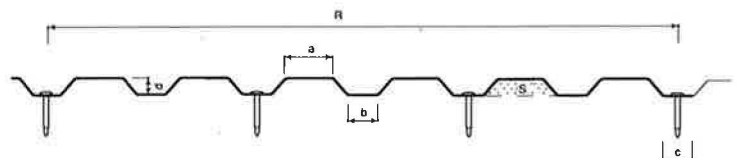
(①差込式働き幅片面端部1箇所留め)



(②嵌合差込式働き幅片面端部1箇所留め)



形状：仕様2 (重ね式両面端部2箇所以上留め)



外装材 (鋼板) の折板形状・寸法断面詳細図

厚さ(t): 0.35mm以上
働き幅(R): 320(-10)mm以上~800(+10)mm以下
山高さ(d): 12(-1.2)mm以上~40(+4)mm以下
山底幅(a): 30(-3)mm以上~175(+10)mm以下
谷底幅(b): 35(-3.5)mm以上~50(+5)mm以下
重ね代(c): 15(-1.5)mm以上
空間断面積(S): 6.3(-0.6)㎤以上 留付間隔: 267mm以下

折板形状: 1), 2) 又は 3)
1) リブ波板
2) 角波板
3) 波板
なお、各辺部にリブ補強入りも可
断面係数(Zx): 1.24cm³/m以上

図3

カベタイカ60分

■材料の種類

下 地 材	ダイワライト カベタイカ40mm+石膏ボード12.5mm	
	総 厚	52.5mm以上
	質 量	32.2kg/m ² 以上
ジョ イ ナ ー	材 質 ①～⑤ のー	①塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322) ②塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312) ③塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3318) ④溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) ⑤溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)
	形状・寸法	T型-0.27×30×12mm
防 水 シ ート	材 料	透湿防水シート(JIS A 6111) 単位面積質量:80g/m ² 以下(有機質量)
	厚 さ	0.3mm以下
目 地 テ ー プ	材 料	黒鉛含有セラミックファイバー

外 装 材	材 料 鋼板の種類 ①～⑫ のー	①塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322) ②塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312) ③塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3318) ④溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) ⑤溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) ⑥溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) ⑦塗装ステンレス鋼板(JIS G 3320) ⑧溶融アルミニウムめっき鋼板(JIS G 3314) ⑨ステンレス鋼板(JIS G 4304、JIS G 4305) ⑩高耐候性圧延鋼材(JIS G 3125) ⑪塩化ビニル樹脂金属積層板(国土交通大臣認定不燃材料:NM-8674～NM-8696のー) ⑫ポリ塩化ビニル被覆金属板(JIS K 6744)(但し、鋼板及びめっき鋼板に限る。) 但し、塗装品の塗布量:70g/m ² 以下(有機質量) 降伏点:205N/mm ² 以上
	形 状	折板(仕様1又は仕様2:図3参照)
	厚さ(t)	0.35mm以上
	寸 法	仕様1 働き幅(R):113(-10)mm以上 ～340(+10)mm以下 山高さ(d):10(-1)mm以上 谷底幅(b):35(+3.5)mm以下 仕様2 働き幅(R):320(-10)mm以上 ～800(+10)mm以下 山高さ(d):10(-1)mm以上 ～40(+4)mm以下

認 定 書

大和建材工業株式会社
代表取締役社長 岡本 健太郎 様

国 住 指 第4074号
平成23年2月28日

国土交通大臣 大島 章太郎



下記の構造方法等については、建築基準法第68条の26条1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第2条第七号並びに同法施行令第107条第二号及び第三号(外壁(非耐力壁):各1時間)の規定に適合するものであることを認める

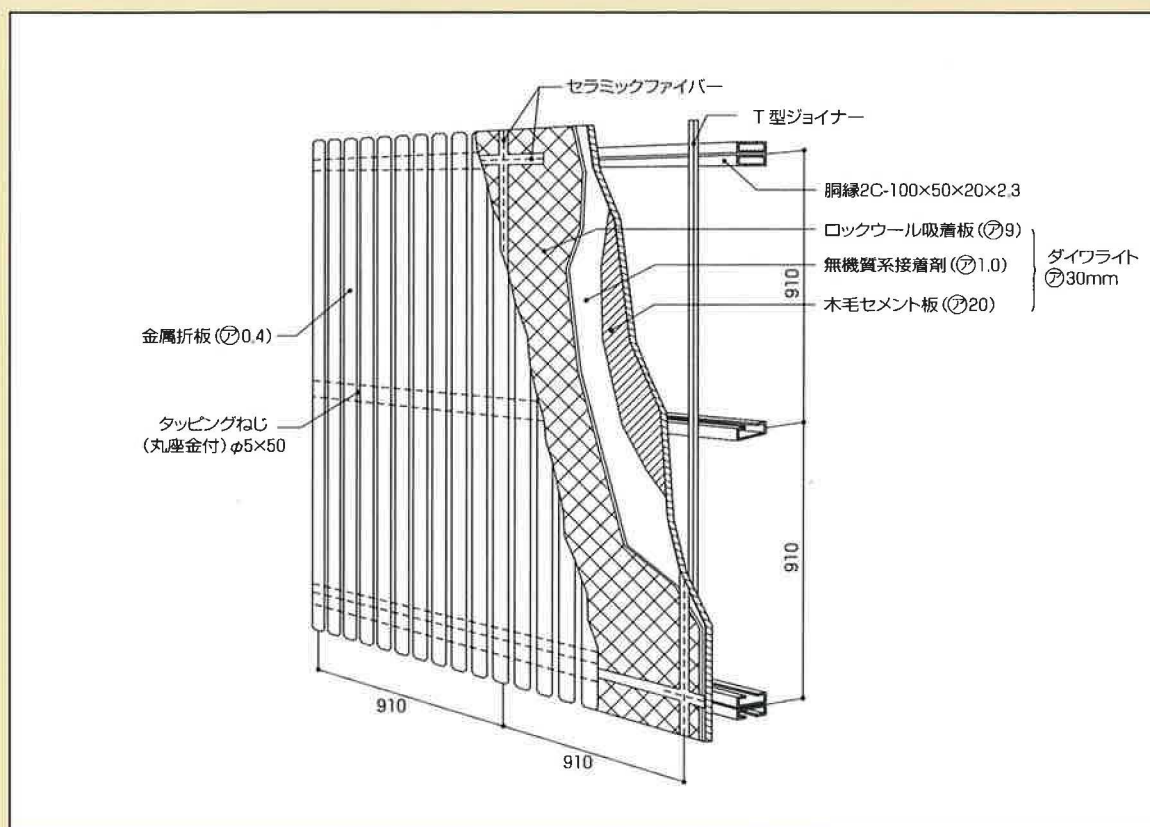
記

- 認定番号
FP060NE-0164
- 認定をした構造方法等の名称
鋼板・せっこうボード・ロックウール吸音材・木毛セメント板表張/軽鋼鉄骨下地外壁(非耐力)
- 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

ダイワライトW30

国土交通省認定番号FP030NE-9073

外壁耐火 30分



■材料の種類

種 類	厚さ(mm)	規 格
亜鉛鉄板	0.4以上	JISG3302(不燃1041号)
着色亜鉛鉄板	0.4以上	JISG3312(不燃1041号)
塩化ビニール樹脂 金属積層板	0.4以上	JISK6744(不燃1051号)
弗素樹脂塗装鋼板	0.4以上	
カラーステンレス鋼板(SUS304,316)	0.4以上	JISG4305(不燃1006号)
ガリバリウム鋼板	0.4以上	(不燃(個)1727号)
熱間圧延黒皮付 耐候性鋼板	0.4以上	JISG3125

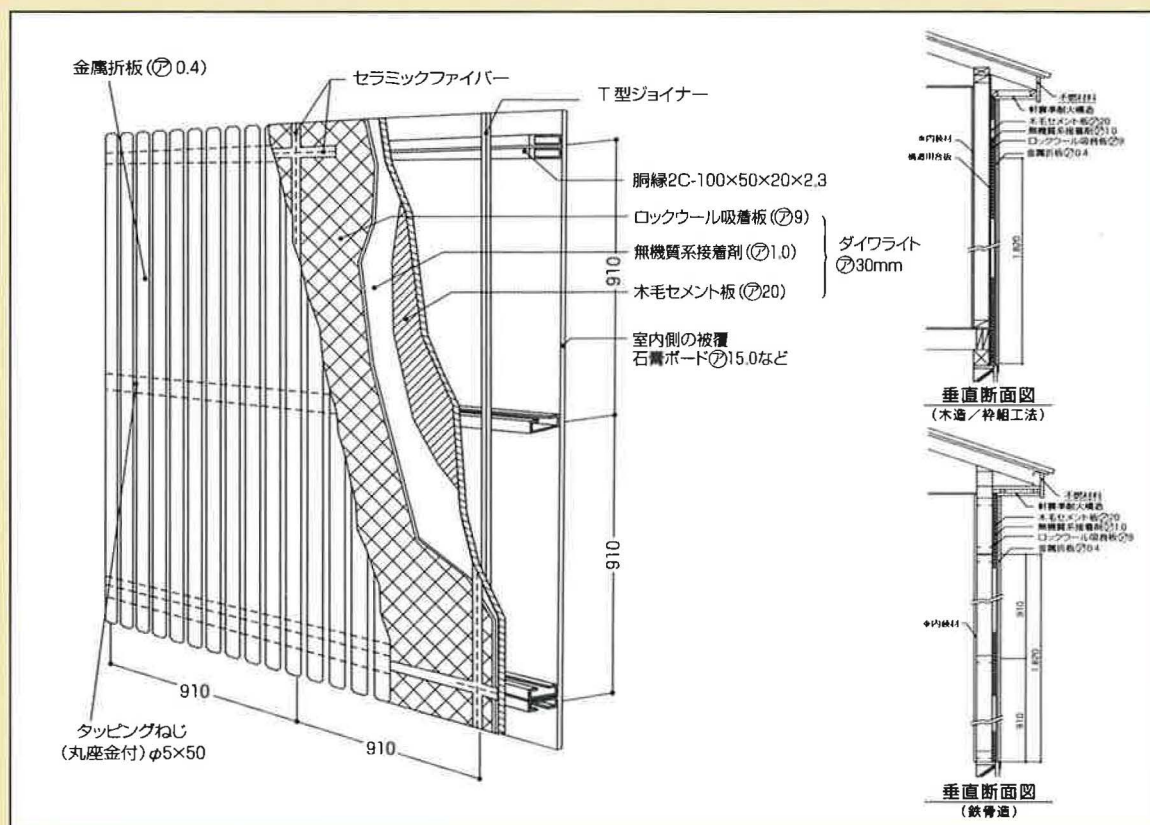
ダイワライト カベタイカ寸法

厚 さ	30mm±1mm/耐火30分・45分 40mm±1mm/耐火60分
大 き さ	910mm×1,820mm 910mm×2,000mm
重 量	30mm 16.5kg/m ² 40mm 23.0kg/m ²

ダイワライトW45

国土交通省認定番号QF045BE-9025

外壁耐火45分（準耐火）



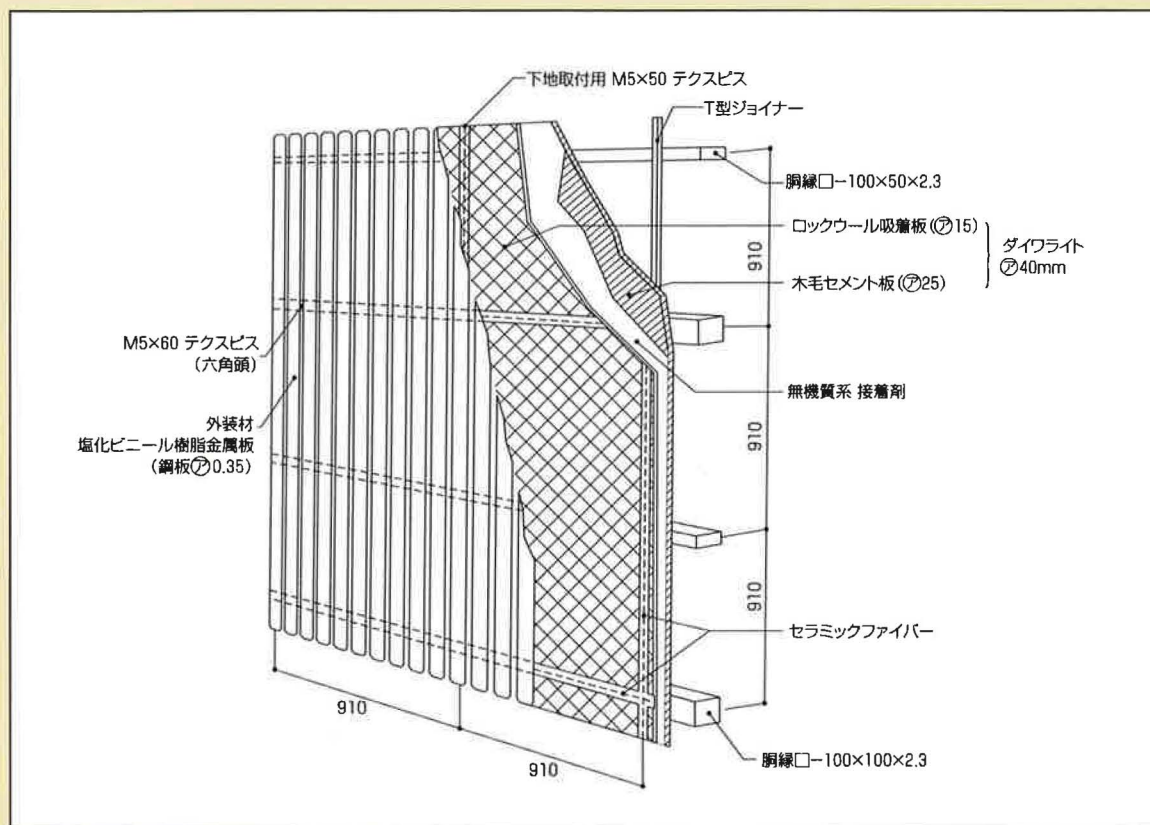
■材料の種類

種 類	厚さ(mm)	規 格
亜鉛鉄板	0.4以上	JISG3302(不燃1041号)
着色亜鉛鉄板	0.4以上	JISG3312(不燃1041号)
塩化ビニール樹脂 金属積層板	0.4以上	JISK6744(不燃1051号)
弗素樹脂塗装鋼板	0.4以上	
カラーステンレス鋼板(SUS304,316)	0.4以上	JISG4305(不燃1006号)
ガリバリウム鋼板	0.4以上	(不燃(個)1727号)
熱間圧延黒皮付 耐候性鋼板	0.4以上	JISG3125

ダイワライトW60

国土交通省認定番号FP060NE-9056

外壁耐火 60分



■材料の種類

種 類	厚さ(mm)	規 格
亜鉛鉄板	0.35以上	JISG3302(不燃1041号)
着色亜鉛鉄板	0.35以上	JISG3312(不燃1041号)
塩化ビニール樹脂金属積層板	0.35以上	JISK6744(不燃1051号)
弗素樹脂塗装鋼板	0.35以上	
カラーステンレス鋼板(SUS304,316)	0.35以上	JISG4305(不燃1006号)
ガリバリウム鋼板	0.35以上	(不燃(個)1727号)
熱間圧延黒皮付 耐候性鋼板	0.35以上	JISG3125

外壁非耐力壁

ダイワライト カベタイカ

データが示す信頼。
機能性あふれる素材力。

標準施工仕様

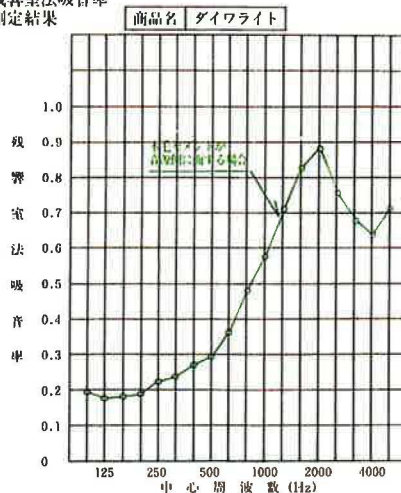
- 下地
胴縁は910mm間隔に不陸がないように、柱及び間柱に取り付ける。
- ダイワライト カベタイカ(W30、W45、W60)の取り付け
ダイワライト カベタイカを留付金具φ5×50mmにて胴縁に留め付ける。積層板の長手方向の裏面接合部にT型ジョイナーを入れる。目地部は、縦横共セラミックファイバーを接着又はステーブルで留め付ける。

吸音性能

(表4)

残響室法吸音率試験成績書			
大和建材工業株式会社 敬			
試験結果は下記の通りであることを証明する。			
財団法人 日本建築総合試験所			
試験場所 長谷川 室			
試験機名	財団法人 日本建築総合試験所	試験機名	財団法人 日本建築総合試験所
住所	愛知県海部郡西尾町大字西尾	住所	愛知県海部郡西尾町大字西尾
会社名	大和建材工業株式会社	会社名	大和建材工業株式会社
試験方法	JIS A-1409「残響室法吸音率の測定方法」に準拠	試験方法	JIS A-1409「残響室法吸音率の測定方法」に準拠
測定年月日	昭和54年9月5日	測定年月日	昭和54年9月5日
測定条件	室温 25.6℃ 湿度 76%	測定条件	室温 25.6℃ 湿度 76%
試験体寸法	15.3×15.3 表面積 2.34m ²	試験体寸法	15.3×15.3 表面積 2.34m ²
試験体	中心周波数 (Hz)	試験体	中心周波数 (Hz)
100	9.58 22.39 0.31	100	15.37 31.09 0.17
125	11.73 25.16 0.33	125	15.07 30.14 0.17
160	11.49 22.02 0.21	160	14.71 25.59 0.15
200	11.34 20.32 0.30	200	13.64 23.81 0.16
250	10.46 19.12 0.22	250	12.15 21.58 0.18
315	9.42 16.89 0.24	315	10.36 18.33 0.21
400	8.26 14.42 0.26	400	8.60 15.32 0.26
500	7.36 12.81 0.29	500	7.43 13.24 0.30
630	6.48 12.00 0.36	630	6.31 12.02 0.38
800	5.58 10.62 0.43	800	5.59 10.59 0.43
1,000	4.74 9.38 0.53	1,000	5.00 9.22 0.47
1,250	4.39 8.63 0.57	1,250	4.49 8.27 0.52
1,600	3.87 7.35 0.63	1,600	4.08 7.20 0.54
2,000	3.55 6.39 0.64	2,000	3.43 6.18 0.58
2,500	3.26 5.87 0.67	2,500	3.25 5.38 0.62
3,150	2.85 4.83 0.73	3,150	2.88 4.72 0.69
4,000	2.49 3.95 0.76	4,000	2.55 3.96 0.71
5,000	2.08 3.06 0.78	5,000	2.12 3.17 0.79

残響室法吸音率
測定結果



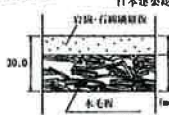
昭和54年9月5日 財団法人 日本建築総合試験所

断熱性

熱伝導率測定報告書

日本建築総合試験所

- 名称 ダイワライト 試験 A
- 社名 大和建材工業株式会社
- 仕様



試験作成日: 昭和47年3月17日

4. 測定結果

試験 A	試験厚さ δ (cm)	試験寸法 (cm×cm)	試験面積 (m ²)	試験かさ比 (kg/cm ³)	試験含湿状態
測定開始時	1.91	20.0×20.1	464.5	0.61	乾燥
測定終了時			466.5	0.61	
設定温度条件					
			1回目(高温)	2回目(中温)	3回目(低温)
材料高温側表面温度	θ ₁ (°C)		60.0	39.4	19.9
材料低温側表面温度	θ ₂ (°C)		39.4	19.9	0.9
標準低温側表面温度	θ ₀ (°C)		32.6	13.6	-5.0
試験体平均温度 (θ ₁ + θ ₂) / 2	(°C)		49.7	29.7	10.4
標準体平均温度 (θ ₁ + θ ₀) / 2	(°C)		36.0	16.8	-2.1
標準板厚さ	δ ₀ (cm)		1.94	1.94	1.94
標準熱伝導率	λ ₀ (Kcal/mh°C)		λ ₀ = 0.000705 ((θ ₁ + θ ₂) / 2) + 0.1900		
試験熱伝導率	λ (Kcal/mh°C)		0.0699	0.0642	0.0576

5. 熱伝導率の算出

$$\lambda = \lambda_0 \frac{\delta}{\delta_0} \times \frac{\theta_1 - \theta_2}{\theta_1 - \theta_0}$$

6. 測定日時

昭和47年4月17日

7. 測定方法

JIS A 1412「保温材の熱伝導率測定方法」に準拠。

- ① 試験体とδは各辺中央部分の厚さ (18.8), (18.9), (19.1), (19.6) mm の算術平均を採用した。
- ② 試験含湿状態「乾燥」とは試験体を 105℃ の乾燥器に入れ、重量変化のなくなった状態をいう。

(表1)

試 験 年 月 日		昭 和 54 年 5 月 24 日		
測 定 回		第 1 回	第 2 回	第 3 回
試 験	総 熱 流 Q (Kcal/h)	38.6	38.6	38.6
	熱箱周壁からの流出熱流 Q _w (Kcal/h)	11.3	11.3	11.3
	試 験 体 通 過 熱 流 Q _t (Kcal/h)	27.3	27.3	27.3
	冷却側空気平均温度 θ _{ca} (℃)	19.6	19.5	19.4
	試験体平均冷却側 θ _{cs} (℃)	23.1	23.0	22.9
	表面温度 加熱側 θ _{hs} (℃)	38.1	37.8	37.8
	加熱側空気平均温度 θ _{ha} (℃)	41.2	41.2	41.2
	試験体平均温度 (θ _{cs} + θ _{hs}) / 2 (℃)	30.6	30.4	30.4
	試験体平均表面温度差 θ _{hs} - θ _{cs} (℃)	15.0	14.8	14.9
	熱箱内外空気平均温度差 θ _{ha} - θ _{ca} (℃)	21.6	21.7	21.8
果	試験体熱伝導率 A (m ²)	0.809 (0.900m × 0.899m)		
	熱 貫 流 率 K = Q _t / { (θ _{ha} - θ _{ca}) A }	1.56	1.54	1.55
	熱コンダクタンス C = Q _t / { (θ _{hs} - θ _{cs}) A }	2.25	2.28	2.26
	熱貫流抵抗値 R = 1 / K (m ² h℃ / Kcal)	0.64	0.64	0.65
	熱 伝 抗 値 Rc = 1 / C (m ² h℃ / Kcal)	0.44	0.44	0.44
備 考	※ 1 : ロックウール吸音板 : 公称かさ比重 0.4 モモメント板 : 材料構成 (重量比) セメント 55% 水 45% (水毛 : 長さ 450mm, 厚 3.5mm, 厚 0.35mm)			
	※ 2 : ロックウール吸音板の公称厚さ 9mm, モモメント板の公称厚さ 21mm			
	試験実施場所 大阪府吹田市藤井台 5 丁目 125 (財) 日本建築総合試験所 試験担当者 上田 雅夫・西村 宏昭・日高 浩			
試験結果は上記のとおりであることを証明します。				
昭和 54 年 6 月 18 日				
財団法人 日本建築総合試験所 所 長 豊 正 一				

- 積み降ろしのとき角を損傷しないように注意する。
- ロープなどでつり上げるときは当て板などをを用い損傷に注意する。
- 保管場所は原則として屋内に保管し、やむを得ず屋外に置く場合は地面に直接置かず、出来る限り水平な場所にかい木を敷き、雨水がはいらない様に防水シートをかける。

下地材の施工後は速やかに雨どいをしてください。

● 其の他ご不明な点がございましたら、ご遠慮なくお電話をいただき、係員にお尋ねくださるか、設計条件等ご希望の事項をお聞かせ願ひ、ご依頼があればご説明に伺います。せいぜいご利用願えれば幸と思います。

(表3)

音響透過損失試驗成績表

大和建材工業株式会社 殿

試験結果は下記の通りであることを証明します。

財団法人 日本建築総合試験所
所址 上野区上野 豊島正一ビル

財団法人 日本建築総合試験所
 東京都千代田区千代田1-1-1 TEL.03(321)0091
 試験担当 森本 三男

試驗担当者 鹿 本 三 男

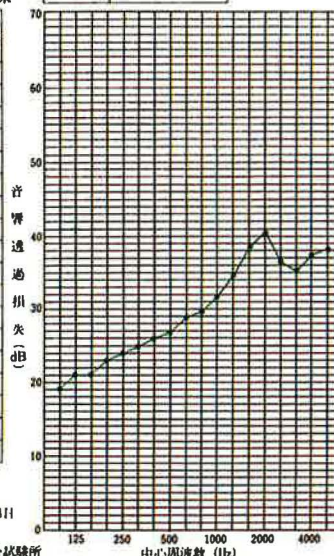
受 託 者 名	百々アソー44	試 験 機 名	新田法人 日本建築総合試験所
産 品 名	デグライト	会 社 名	愛知建築部会近町大内所
品 目 名	百々建付毛毛セメント板	試 験 方 法	建築部会近町大内所
用 途	屋 屋 材	試 験 方 法	建築部会近町大内所
製作年月日	昭和44年8月1日	試 験 方 法	建築部会近町大内所
試 験 場 所	新田法人 日本建築総合試験所	試 験 方 法	建築部会近町大内所
寸 法 (mm)	W2,030×H2,030×T30	試 験 方 法	建築部会近町大内所
重量 (kg)	15.15 (検査用試片)	試 験 方 法	建築部会近町大内所
製 作 者	西沢設計 (4,000mm×3,000mm) を 9/10の割合でコンクリートで作り出し、2,030mm×3,030mmの毛毛板を製作した。試験片を製作した。	試 験 方 法	建築部会近町大内所
試 験 方 法	別図1参照	試 験 方 法	建築部会近町大内所
製造 部分	毛毛の間に、過熱を定めた。	試 験 方 法	建築部会近町大内所
試験片構成 (寸法) 詳細は別図1、2に示す。	S: 1/50	試 験 方 法	建築部会近町大内所
表示図1の図	S: 1/50	試 験 方 法	建築部会近町大内所
図 1	S: 1/50	試 験 方 法	建築部会近町大内所
図 2	S: 1/50	試 験 方 法	建築部会近町大内所
図 3	S: 1/50	試 験 方 法	建築部会近町大内所
図 4	S: 1/50	試 験 方 法	建築部会近町大内所
図 5	S: 1/50	試 験 方 法	建築部会近町大内所
図 6	S: 1/50	試 験 方 法	建築部会近町大内所
図 7	S: 1/50	試 験 方 法	建築部会近町大内所
図 8	S: 1/50	試 験 方 法	建築部会近町大内所
図 9	S: 1/50	試 験 方 法	建築部会近町大内所
図 10	S: 1/50	試 験 方 法	建築部会近町大内所
図 11	S: 1/50	試 験 方 法	建築部会近町大内所
図 12	S: 1/50	試 験 方 法	建築部会近町大内所

音響透過損失 測定結果

中心 频率 (Hz)	衰减 (dB)
100	19
125	21
160	21
200	23
250	24
315	25
400	26
500	27
630	29
800	30
1,000	32
1,250	35
1,600	39
2,000	41
2,500	37
3,150	36
4,000	38
5,000	39

昭和54年8月8日
財団法人
日本建築学会

商品名	ダイワライト
-----	--------



音響透過損失試驗報告書

試験結果は下記の通りであることも併記する。

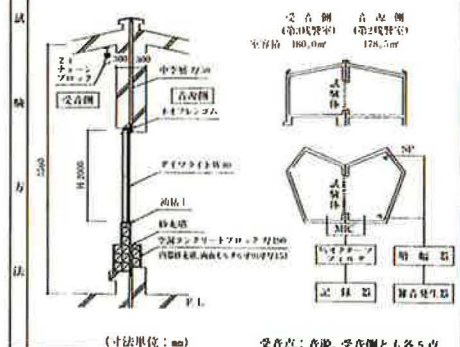
試験番号	W A - 96 - 471
受 付	平成8年10月31日
報 告	平成8年11月26日

明海法人 日本建築総合試験
所 長 正 法 院

試驗番号	ワ A - 26 - 471
受 付	平成8年10月31日
報 告	平成8年11月26日

試 験 体	試 験 者 会 社 名 大和建設工業株式会社 所 在 地 愛知県海部郡岡田大字西保子市川原 8 番地 品 目 ダイヤライト W40 品 目 名 片青黄色和紙板(1100×1700×厚本セメント複合板(紙厚紙片下地)) 製作年月日 平成 8 年 10 月 31 日 試験体寸法 mm W2000×H2000×T149(パネル厚 139)、計標を別図一、二に示す。 密 度 23kg/m ³ (乾燥前、容積値) その 他 試験体と既設開口部の取り合いは油圧シムを充填した。 規 格 JIS A 1316「実験室における音響透過損失測定方法」に基づく。
-------------	--

(試験装置の概要)



NO.471 • 1

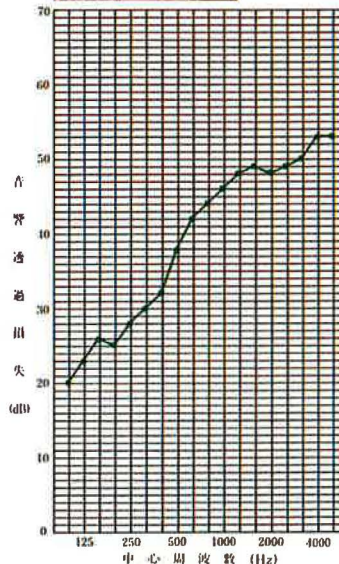
No. 471 • 2

試験年月日	平成 8 年 10 月 31 日	試 験 実施場所	財団法人 日本建築総合試験所
透音面寸法	W2000mm×h1935mm		大阪府吹田市番台5丁目8番1号
温度、湿度	19.0℃、86%RH		(TEL) 06-872-0391 (代)

音響透過損失
測定結果

中心 频率 (Hz)	通 带 增益 (dB)
100	20
125	23
160	26
200	25
250	28
315	30
400	32
500	38
630	42
800	44
1,000	46
1,250	48
1,600	49
2,000	48
2,500	49
3,150	50
4,000	53
5,000	53

商品名	ダイワライト
-----	--------



DL
AIWA LIGHT

大阪ドーム

設計／日建設計
施工／大林組JV



カラフルタウン

設計／日建設計
施工／清水建設



トヨタ自動車外山新物流棟

設計／竹中工務店
施工／竹中工務店



ライオン堺ラック倉庫

設計／村田機械一級建築事務所
施工／大成建設(株)



ダイセイ倉庫

設計／村田機械一級建築事務所
施工／村田機械物流システム



内外セラミック

設計／大建設計
施工／日本舗道



カラフルタウン

設計／日建設計
施工／清水建設



カーロッツ

※R用ボードを使用した建物

設計／日建設計
施工／大日本土木

